

Question 9 : 移乗用リフトを使って2人で、ベッドから車椅子への移乗を介助するにはどんなコツがありますか？

Answer :

- ◆拘縮や麻痺がある、認知機能が低下している等で、対象者が1人で座位保持が出来ない場合や協力が得られにくい場合は、介助者2人で移乗介助を行います。
- ◆介助者のうち1人は、常に対象者が座位保持できるように介助します。特に以下の場合は、対象者の身体が左右に傾いたり、前傾するので、座位バランスが悪くなります。
 - ・スライディングボードを臀部の下に差し込むとき
 - ・スライディングボードの上を対象者が移動するとき
 - ・スライディングボードを臀部の下から引き抜くとき

- ◆介助者2人は対象者の前後で介助します。スライディングボードを臀部に差し込むときは、対象者の身体を左右のどちらかに傾けるため、介助者の1人は必ず対象者の座位保持を介助します(写真10)。ベッドをギャッチアップした状態にして対象者をベッド側に傾けるとベッドに寄りかかった状態になるので、座位保持の介助がしやすくなります。



写真10



写真11

- ◆スライディングボードの上を移動するときは、介助者の1人は骨盤を保持し、もう1人の介助者は上半身を保持します(写真11)。この時、介助ベルトを使用するとより移動がスムーズになります。また、上半身を保護するためにバスタオル等で上半身を包む方法もあります。

- ◆介助者2人で介助しても座位保持が難しい場合は、スライディングボードを使用した車椅子移乗以外の移乗方法を選択する必要があります。
- ◆ベッド⇄車椅子移乗フローチャート(p.8)において、座位姿勢はできるが、対象者の協力が得られない場合は、「リフトを使った2人介助での移乗」となりますが、リフトがない場合には、「介助者2人によるスライディングボードを使った車椅子への移乗」を移乗方法として選択することも可能です。
- ◆手順については、p.14<手順:スライディングボードを使用したベッドから車椅子への移乗(動画も同様)>を参照してください。

Answer :

- ◆座位姿勢はとれるが協力が得られない、前屈姿勢がとれない人の移乗は、移乗用リフト（以下、リフト）の適用となります。フローチャート(p.9)参照。
- ◆アメリカやオーストラリアなどでは、リフトを使用した移乗介助は2名以上で行うことが義務付けられています。
- ◆リフトとスリングには様々な種類とサイズがあります(図1~4)。リフトやスリングの適合には、使用目的、対象者の体格・能力・生活環境・好み、介助者の能力、予算などを考慮し、医師、理学療法士、福祉用具専門相談員などの専門職に相談して適切なものを選ぶようにしましょう。
- ◆スリングの着脱やリフト本体の操作は、不良姿勢を極力とらないように注意するとともに、一方の介助者に負担が集中しないように役割を明確にして（例えば、対象者を挟むように前後や左右に立つ、一方の介助者は対象者の身体を支えてもう一方の介助者はスリングをつけたリフトを操作したりするなど）行います。
- ◆リフトの安全性やバッテリー残量が充分であることを事前に確認してから使用しましょう。
- ◆手順については、p.18<手順：移乗用リフトを使用したベッドから車椅子への移乗>を参照してください。

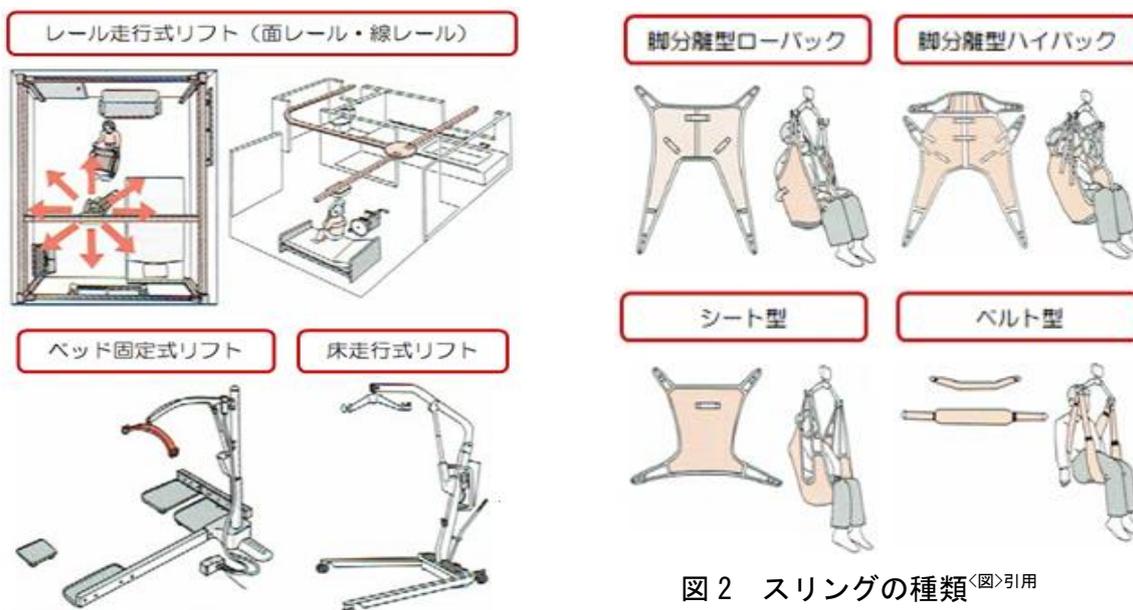


図2 スリングの種類<図>引用

図1 リフトの種類<図>引用



図3 リフトの各部の名称<図>引用

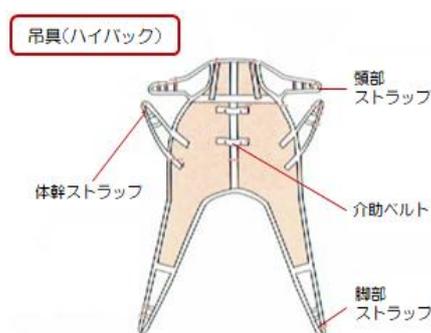


図4 スリングの各部の名称<図>引用一部改変

- ◆スリングを装着する時は、対象者が吊り上がった時に臀部が落ち込まず、左右のバランスが整うように、対象者の脊柱とスリングの中央を合わせ、スリングの体幹支持部の下端を対象者の尾骨先端部に合わせるようにします(図5)。

- ◆脚分離型スリングを使用する場合は、対象者の大腿部～臀部を脚部ストラップで覆うように大腿部の下をくぐらせ、その後、片方の脚部ストラップをもう一方のストラップの中を通して交差させます（写真12）。

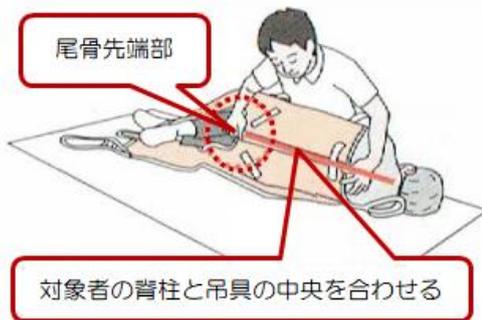


図5<図>引用一部改変



写真12

- ◆対象者を吊り上げる直前に、全てのストラップがリフトのハンガーのフックにしっかりとかかっていることを再確認します。対象者を吊り上げる際は、床走行式リフトを使用する場合はリフトのキャスターはロックをかけない、ベッド固定式リフトの場合は車椅子のブレーキを解除します（ロックあるいはブレーキをかけないことで、吊り上げる時のバランスを保つためにリフトあるいは車椅子自体が動きます）。対象者を完全に吊り上げる手前で一旦止め、介助者2人でスリングのしわを伸ばしたり、対象者の肩や大腿部周囲の圧抜きをしたりして不快感を軽減させます。



写真13

- ◆車椅子に着座する際は、対象者が深く着座できるように、介助ベルトをバックサポート側に引き上げながら、対象者の臀部がバックサポートを沿って下りるように調整します（写真13）。
- ◆リフトを使用したベッドから車椅子への移乗介助に関する研究において、リフト介助の習得度は、チェックリストを用いた指導を受けて反復した場合に有意に向上したことが報告されています。また、第3～4腰椎間の脊柱起立筋の表面筋電図と上体傾斜角の測定を行い、リフト介助と人力介助による介助者役の腰部負担を検討したところ、筋電位は有意差が認められなかったが、上体傾斜角はリフト介助の方が人力介助より有意に小さかったことが報告されています。他にも、リフト介助の作業時間は、習得度が上がることで有意に短縮されることが報告されています（富岡ら2008）。
- ◆高齢者介護施設で、リフト、スライディングボード、スライディングシートを組織的に使用するプログラムを導入した施設（介入施設）と福祉用具を導入していない施設の2年半後の福祉用具の使用状況について質問紙調査を比較したところ、介入施設では、リフトを必ず使用していました。積極的に福祉用具を使用していた介護者は、腰痛の改善効果が認められたことが報告されています（岩切ら2017）。

<文献>

岩切一幸，松平浩，市川洸，高橋正也（2017）：高齢者介護施設における組織的な福祉用具の使用が介護者の腰痛症状に及ぼす影響，産業衛生学雑誌，59(3)，82-92。

富岡公子, 栄健一郎, 保田淳子 (2008) : 移乗介助におけるリフトの腰部負担軽減の効果—介護者の介助技術の習得度を考慮した有効性の検証—, 産業衛生学雑誌, 50(4), 103-110.

<図>

富田川智志 (2013) : 実践! 持ち上げない移動・移乗の介助 第12回「リフトを使用して移乗する」, 中央法規出版, おはよう 21, 24(13), 52-55.

<手順：移乗用リフトを使用したベッドから車椅子への移乗>

1	介助前にリフトの安全性やバッテリー残量が充分であることを確認する
2	対象者の状態・移乗目的にあったスリングを準備する
3	対象者に移乗の目的・方法を説明し、同意・協力を得る
4	対象者の気分や体調を確認する
5	ベッド周りの環境を整え、リフト本体と車椅子の設置スペース、介助スペースを確保する
6	スリングを敷き込む際、スリングの体幹支持部の下端を対象者の尾骨に、スリングの中央を対象者の脊柱に合わせる
7	対象者の大腿部～臀部を覆うように、脚部ストラップを大腿部の下をくぐらせ、片方の脚部ストラップの中にもう一方のストラップを通して交差させる
8	リフトのアームを対象者に近づけ、スリングの全てのストラップをリフトのハンガーのフックにしっかりかける
9	対象者を吊り上げる際、床走行式リフトの場合はリフトのブレーキを、ベッド固定式リフトの場合は車椅子のブレーキを解除する
10	完全に吊り上げる前に一旦止め、スリングのしわを伸ばし、圧抜きをし、着け心地を確認する
11	車椅子まで対象者を誘導する際、対象者の身体が揺れないように支えながらリフトを操作する
12	対象者が深く着座できるように、スリングの介助ベルトを引きながらあるいは対象者の膝をバックサポート側に押しながらリフトのアームを下ろす
13	リフトのハンガーが対象者に当たらないように、ハンガーを手で固定しながらスリングの全てのストラップがリフトのハンガーフックから外せる高さまでリフトのアームを下ろす
14	対象者が深く着座できたことを確認し、対象者の体幹を支えながら前屈みにして、対象者の背面側からスリングを引き抜く

【移乗用リフトでの車椅子移乗法
ローバックスリング】動画

<https://youtu.be/sYyIVOdzxQ>



【移乗用リフトでの車椅子移乗法
ハイバックスリング】動画

<https://youtu.be/hb7XhYq2ItA>

